

僕の名前は一条凛。年齢は〇四歳。都内の〇学校に転校したばかりの三年生だ。見た目はかなり可愛い方だと思うし、体も引き締まっっていてスタイルにも自信がある。

そんな、どこにでもいるような、ごく普通の〇学生である僕なのだが、実は、女になったのはつい最近で、もともとはさえないオッサンだったのだ。



【男子】「一条さんおはよう！ もう学校にも慣れた頃かな？」

【女子】「凛ちゃんおはよう！ その制服もよく似合うね、うらやましいなあ」

【僕】「おはよう。ふふっ、ありがとう」

オッサンだった僕の体は、交通事故で損傷が激しく、生存は絶望的だった。

そこで万能細胞から作り出した体に脳を移植するという大手術を行ったのだが、出来上がった新しい肉体は、なぜか〇四歳の少女の体だった、というわけだ。



勿論だが、元々さえないオッサンだった僕は、
美少女の体を堪能する事にした。



まずはノーパンになり性器をじっくり確認した後、
ポールペンを挿入してオナニーを堪能した。

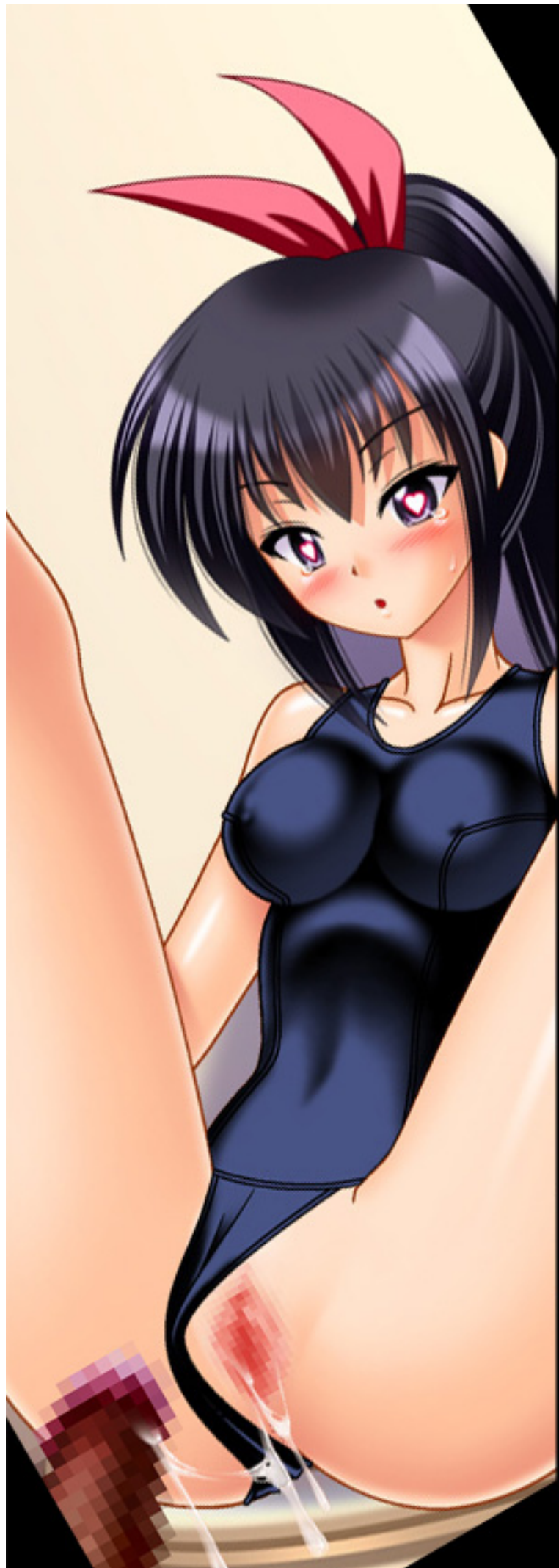




次に、○学校へと投稿し、男子生徒たちになやほやされた後、僕を注意しに来た校長を逆レイプして弱みを握り。


学校でセックスしたくなったら校長を呼び出して、都合よく使える肉パイプとした。







僕のエロい恰好を見て欲情した男子の筆おろしセックスに付き合ってた。やったり。



成人向けの生放送でコスプレし、半開きになた子宮口を見せつけてやった。



そんなわけで、僕は転校して間もないにも関わらず、学校ではかなりの地位を手に入れていた。

【校長】「あつ……お、おはよう。一条君……」

【僕】「おはようございます。校長先生……」

【男子】「り、凛ちゃんおはようっ！ き、今日も可愛いねっ！」

【僕】「そうっ、ふふっ。ありがとうっ！」



【僕】「それにしても、こうやって男子から囲まれていると、アイドルになった気分だな。実際、アイドル並みに可愛いんだけど僕は……」

校長と、僕が筆おろししてやった男子には、言う事を聞くなら定期的にセックスをさせてやるが、言う事を聞かないなら暴行されたと警察に訴えると伝えてあるので、僕に対して従順になっている。また、それ以外の男子も、僕との関係を狙っており、かなりちやほやしてくれる。

男子達が僕を見て挙動不審になっている姿や、僕の気を引こうとしてちやほやする姿は、僕が本当に美少女である事を自覚出来て、とても気持ちがいい。



また、元がオツサンだったとは言え、○学生からやり直すと言っつのは、強くてニーゲーム状態でもある。

【女子】「チツッ！男子にちやほやされて……アイドル気取りかよ……」

【僕】「ん？今何が言っつた？この前の写真と録音、世間に公表しようか？」

【女子】「っ！な、何も言っつてないからっ！」

僕の事を睨みつけて舌打ちした女子は、苦虫を噛み潰したような顔で走り去った。

【僕】「……ふんっ。小娘が大人に勝てると思うなよ？」

僕が男子にちやほやされる事を気に入らない一部の女子達が、僕をイジメようとしたのだが、きつちりと証拠を押さえて出る所に出ると脅してやったら、大人しくなった。

その女子達は学校ではカースト上位だったようで、それを返り討ちにした事で、女子からの僕の評価も上がった。そして、僕はこの学校では、大体何をやっていても許される立場になっていたのだった。





授業も所詮は○学生の内容、僕には楽勝だし、体育もこの体はとても軽いので楽勝だ。ほぼ昼寝したり妄想したりしながら、放課後を迎えると、色々な部活の男子が群がってきた。

【男子】「凛ちゃん、うちの部活こないー?」

【男子】「いやいや、凛ちゃん今日はこっちの部活でおいでよー!」

【男子】「丁寧に教えるからさ、へへっ!」

下心丸出しの男子がちやほやしてくるのは、そんなに悪い気はしない。何しろこっちには社会経験豊富な大人で、主導権は全てこちらにあるからだ。盛りの付いた犬に懐かれていると思えば可愛いものだ。

【僕】「今日は水着を持ってきたので、水泳部の見学に行こうかなって思ってます!」

【男子】「おおお〜! 凛ちゃんの水着姿、絶対可愛いよな! 楽しみ!」

男子の目つきがさらに欲望に満ちた物に変わった。僕はドキドキしながらプールへと向かった。





【男子】「それじゃ、更衣室はこっちだから」

【僕】「ありがとうございます」

僕は案内された更衣室に入る。男子更衣室とは同じ部屋で、薄い衝立で仕切っただけだ。

【僕】「日これ、下からのぞき込んだら見えるかもな……」

僕は男子に聞こえない程度の小声でつぶやいた。衝立の下部には隙間があり、顔を床にひつつけるか、鏡がスマホでも置けば、女子更衣室は簡単に覗き込めてしまう。

【僕】「さて、着替えよっかな」

僕がそう呟くと、男子更衣室の方は不自然なほど静まり返った。

これは間違いなく覗いていると考えた方がいいだろう。それならむしろ見せつけてやるつもりだ。



